

に印象的でした。こうしたトピックの最先端を共有し熱く議論した後に、最終日のパネルディスカッションでは、表面計測・分光技術の今後の展望を集中的に議論しました。

初日の夜に開催したブッフエスタイルの歓迎レセプション、二日目の夜のバンケット、さらに招待講演者限定の最終日の和食ディナー会では笑顔・笑い声が絶えない良い雰囲気の中で互い

の交流を深めることができました。議論と交流が大いに盛り上がった3日間でした。コンファレンスの目的を十分に達成できたと思います。

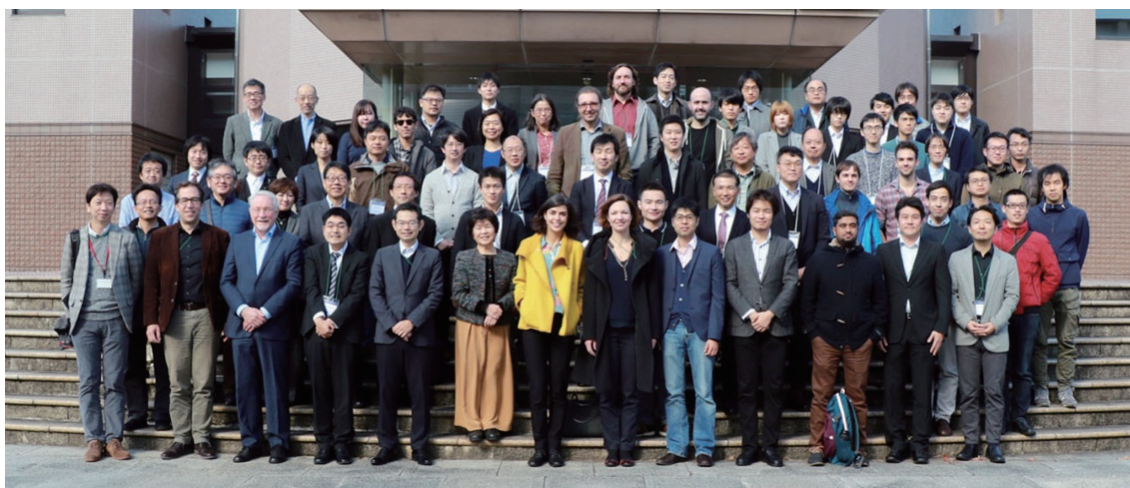
最後に、本コンファレンスの開催を経済的にサポートして下さった分子科学研究所、日本科学技術振興機構、フリッツハーバー研究所、UNISOKUに御礼申し上げます。また、開催準備や当日の運営にご尽力頂いたラボのメン

バー・分子研秘書・戦略室の皆さまに心より感謝致します。また、ご参加頂きコンファレンスを盛り上げて下さったすべての参加者の皆さまにも御礼申し上げます。本コンファレンスが次の10年間の当該分野・関連分野の大きな飛躍のきっかけとなる事を期待して、ご報告とさせていただきます。

(杉本 敏樹 記)

### 【トピック】

- |   |   |
|---|---|
| (1) Model Catalyst and its Perspective                | (7) Carrier Dynamics in Condensed Phase and Interface |
| (2) New Approach for Electrochemistry                 | (8) Molecular Materials                               |
| (3) Operando Spectroscopy for Surface Reactions       | (9) Scanning Probe Techniques for Molecular systems   |
| (4) New Approach for Near-Field Physics and Chemistry | (10) Hydrogen Dynamics and Engineering                |
| (5) New Concept for Methane Activation                | (11) In-situ/Operando Techniques for Catalysis        |
| (6) Electron Dynamics in 2D systems                   |   |



## “Institute for Molecular Science Advisory Council 2019” 開催

2019年12月10日～11日の2日間に渡り、分子科学研究所 国際諮問委員会 (IMS Advisory Council 2019) が行われましたのでご報告いたします。本委員会は、分子科学研究所の組織全体としての事業評価を目的としており、次期中期計画を含む分子研の将来展望

を諮問する、創設以来初の大掛かりな試みとなります。

委員会メンバーとしては、運営顧問の先生方を中心に以下の9名をお招きしました。

松本 吉泰 ((公財) 豊田理化学研究所、議長)、Peter J. Rossky (Rice University、

副議長)、晝馬 明 ((株) 浜松ホトニクス)、石川 哲也 (理化学研究所 放射光科学研究センター)、菊池 昇 ((株) 豊田中央研究所)、Benjamin List (Max-Planck-Institut für Kohlenforschung)、森 初果 (東京大学 物性研究所)、Ron Naaman (Weizmann Institute of

Science)、瀧川 仁 (東京大学 物性研究所) 一敬称略

委員会本体に先立つラポツアーでは、大学共同利用機関としての研究体制を視察いただきました。委員の先生方へ組織としての分子研の事業活動の理解を促すために、今回のツアールートでは、世界最先端の開発研究が分子研の各グループで行われていること、そして機器センターと装置開発室の2施設の技術力がそれらに大きく貢献していることを関連づけて紹介しました。

具体的には、明大寺地区では、共同利用者の多い計算科学研究センターと極端紫外光研究施設の2つの大型施設に加え、平等特任教授が社会連携研究部門として産学連携研究に取り組む小型レーザー開発の実験室、大森教授が量子シミュレーターの開発を行うレーザー実験室をご見学いただきました。山手地区では、分子研の異分野融合研究について生命創成探求センター (ExCELLS) の加藤センター長よりご紹介しました。生体分子の挙動計測を行う飯野教授グループをご見学いただき、また、NMRやヘリウム液化装置などの共同利用機器を始め、ネイティブ質量

分析機や藤田卓越教授の開発した結晶スポンジ法X線結晶回折装置をご紹介しました。

委員会では、川合所長が分子研の現状と推し進めている事業活動を概説され、続いて領域・施設・センターごとに活動実績を各主幹・施設長がご説明しました。また、研究顧問である中嶋 敦教授 (慶應義塾大学) と Hrvoje Petek 教授 (University of Pittsburgh) から、世界の研究動向における分子研の展望が解説されました。

これらに基づき委員会では、我が国の分子科学研究において分子研の果たすべき役割について活発に議論を行っていただきました。分子研からは特に、川合所長が着任した2016年度から実施してきた組織改革・取り組みによる化学コミュニティの活性化への貢献と、分子研の現状および将来構想に関して、諮問しています。また、文部科学省で評価指標が検討され始めている「共同利用機関法人としての適正」についても、7項目の暫定指標に従い評価を依頼しています。

委員会は2日間で無事閉会し、引き続き事務局では諮問に対する回答を文

書に取りまとめています。最終的にはそれらを Advisory Report として松本議長より川合所長にご提出いただく予定です。

準備から開催当日までを通じて、本委員会は私にとっても分子研という組織を理解する機会となりました。分子研は、分野に特化した研究施設だからこそ研究者コミュニティの意見を反映させやすく、日本の分子科学研究の方向性に大学共同利用機関として大きく影響を与えられる、要の研究所であると認識いたしました。Advisory Report に照らして運営計画を設計することにより、分子研がより力強く分子科学研究を牽引していくことを期待し、今後もこれに研究支援という形で微力ながら携わっていきたいと思います。

着任して半年の新参者で至らぬ点多々ございましたが、導いていただいた皆様のご協力によって、本委員会の開催に漕ぎ着けることができました。この場を借りまして深く御礼申し上げます (Special thanks to 所長秘書 浅岡結子様 & 元戦略室支援員 水野久代様)。

(亀高 愛 記)

